

～環境学館いずみ運営ボランティアによる「いずみガイド」～

2月のデキゴト

2月25日(日)開催 親子で学ぼう! 「環境問題」の講座開催

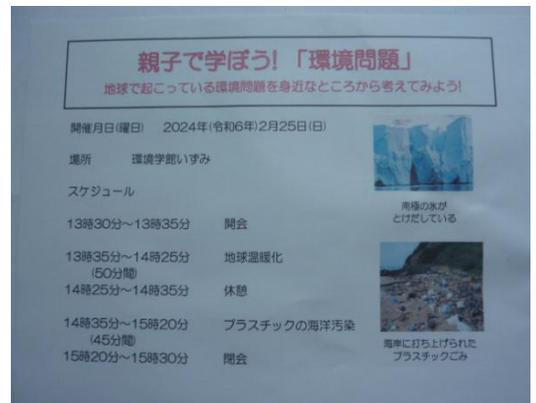
環境学館いずみで、『親子で学ぼう! 「環境問題」』の講座が開催されました。

サブテーマは「地球で起こっている環境問題を身近なところから考えてみよう!」です。

講師は、環境学館のボランティアスタッフの石崎光一です。

講座には、「親子1組」「小学生6名」の参加と、以前いずみのボランティアスタッフとして活躍していた2名も特別参加されました。また、現役のいずみボランティアスタッフ4名も講座のお手伝いと共に、坂戸市民としても参加させてもらいました。

今回の講座のサブテーマにもある「地球で起こっている環境問題」で取り上げられたのは、「地球温暖化」と「プラスチックごみの海洋汚染」です。いずれも、「環境問題」として、美しい地球を次の世代にも引き継いでいくためにも「このままでは引き継げない! 何とかしなければ!!!」という、喫緊の課題です。



親子で学ぼう! 「環境問題」
地球で起こっている環境問題を身近なところから考えてみよう!

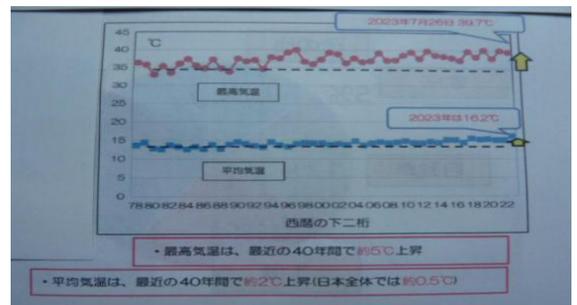
開催月日(曜日)	2024年(令和6年)2月25日(日)
場所	環境学館いずみ
スケジュール	
13時30分～13時35分	開会
13時35分～14時25分(50分間)	地球温暖化
14時25分～14時35分	休憩
14時35分～15時20分(45分間)	プラスチックの海洋汚染
15時20分～15時30分	閉会

写真: 海面上に打ち上げられたプラスチックごみ

ということで、これから将来を担っていく世代にも一緒に考えてもらおうと、企画された講座です。とはいえ、子供達の参加なので、あまり「勉強! 勉強!」でなく、楽しんで学ぶ講座として進められました。

第一部は「地球規模で起こっている温暖化を、身近な問題として考えてみよう!」です。

身近に温暖化を感じてもらおうと、最初に坂戸の気温の変化の説明がありました。ここ40年で毎年の最高気温が約5℃、平均気温が約2℃上昇しており、しかもこの上昇量は日本の中でも際立っています。



温暖化を抑える有効な対策の一つが、発電の方法を化石原料の燃焼エネルギーから自然エネルギーに変えることで、太陽光発電、水力発電、風力発電の説明がありました。その一つである風のエネルギーを感じてもらおうと、使用済みペットボトルを使って風車を作ってみました。

工作が大好きな子供達ぞろいで、真剣かつ楽しく風車作りに熱中しました。そして出来上がった風車を扇風機の風で回った時の子供達の笑顔! はいいですね。



最後に「私たちの未来を変える」ための一例として、LED 電球の省エネについてでした。同じ明るさの白熱電球、電球型蛍光灯、LED 電球を点けて、使用電気量(W 数)の比較しました。また、無駄なエネルギーを使わない LED 電球は電球に触れても熱くないことを触って確認しました。

第二部は「プラスチックによる海洋汚染を、身近な問題として考えてみよう!」です。

身の回りは「プラスチックであふれている!」ことを、配られた個包装のチョコパイで改めて実感しました。(プラスチックの包装紙に包まれていると、確かにお菓子は清潔かつ湿ってなく美味しく食べれますね。)



続いて、よく見かけるプラスチックのサンプルと、いらなくなって分別回収された後リサイクルされたサンプルがテーブルに並べられました。



プラスチックごみが海を汚している写真を見てびっくりし、実際に水槽に入れて浮かしてみても(浮くもの・沈むものあり)、そのまま捨てられるとどういったものが川から海に流れていき易いかを確かめました。



サンプルをひとつずつ、「これは水に浮くと思う人、沈むと思う人」と手を上げてもらうと、結構分かれました。子供達も楽しみながらの学びでした。(PET ボトルや発泡スチロールは特に海まで流れていき易い。)



プラスチックによる海洋汚染 STOP をかけるため、まずは「プラスチックの使う量を減らす」のが大切だと例で説明されました。「プラスチックから他の材料にかえよう。」等です。



そして、「使用済みプラスチックは正しく分別して回収してもらう」ことです。

子供達に用意された「使用済みプラスチックを自分で分別」しました。

表示を確認しながらの分別です。日頃から分別しているのか正しく分別する子供達が多く、でも「あー、そうなのか!」と言った学ぶところもありました。



これから家に帰ったら、ご両親に教えてあげることもあるのでは・・・と頼もしくなりました。

ペットボトルが特に優先的に分別される理由を教えられ、チョット賢くなったかな。

また、プラスチックの海洋汚染で動物たちが困っていることを知って、かわいそうだから、ごみを減らしていきたい!と実感したようです。

参加者は今日の講座を通して、環境問題への取り組みの必要性を感じることができました。

環境問題への関心の輪がもっと広がるためにも、このような講座を継続していく必要があると痛感しました。

記 環境学館ずみ運営ボランティア K. I